

適度のワインは慢性心不全患者にも有効

日常的に適度のワインを飲むことが心臓血管イベントのリスク低下と関連することは示されているが、慢性心不全患者におけるデータは少ない。そこで本研究では、慢性心不全患者の大規模コホートを対象に、ワイン摂取と健康状態、バイオマーカー、臨床転帰との関連性について多施設臨床試験を実施し検討した。

イタリアの GISSI-HF 試験に参加した 6,973 例を対象に、試験開始時に生活習慣に関する簡易アンケートを行った。ワイン摂取と致命的・非致命的臨床イベント、QOL (生活の質)、うつ症状、心機能および炎症性バイオマーカー (一部の患者で検査) との関連について統計学的に解析した。その結果、56%の被験者が 1 日 1 杯以上ワインを飲むと申告し、ワインの摂取量で分けた 4 グループ間で臨床転帰については有意な違いは認められなかった。しかし、潜在的交絡因子の調整後、ワインの摂取量が多い人ほど、より良好な健康状態を認識し (質問票のスコアによる自己評価 ; $p < 0.0001$)、抑うつ症状が少なく (高齢者うつ病評価尺度)、血管炎症性バイオマーカー値が低い (オステオプロテグリン、C 末端プロエントセリン-1 ; $p < 0.001$ 、ペントラクシン-3 ; $p = 0.01$) ことが示された。

今回の結果から、慢性心不全患者の大規模コホートにおいて、適度のワインがより良好な主観的・客観的健康状態、低い抑うつ傾向、血管炎症の少なさと関連することが示された。

しかし、4 年後における、より良好な臨床転帰との関連性は認められなかった。

出典 : Circulation. Heart Failure. Published online Apr 29, 2015;

doi: 10.1161/CIRCHEARTFAILURE. 114.002091